



学校だより

黄菊

学校評価号

令和7年2月21日
立川市立第七小学校
校長 島村 雄次郎

《本校の教育信条》『我等は人間 よき人間でありたい』武者小路 実篤先生より

学校評価まとめ

2学期に行わせていただいた学校評価について、結果を掲載します。

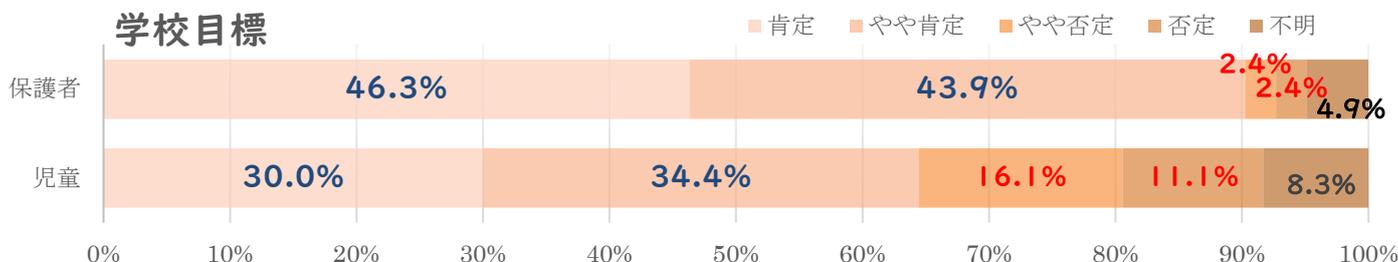
アンケートでお答えいただいたご意見を加味し、保護者とともに子どもたちの心身の成長を目指す学校として、取り組んでまいります。

ご協力ありがとうございました。

※ 分析に活用した児童と保護者の数値は、肯定評価（よい、おおむねよい）の合算値

○学校教育

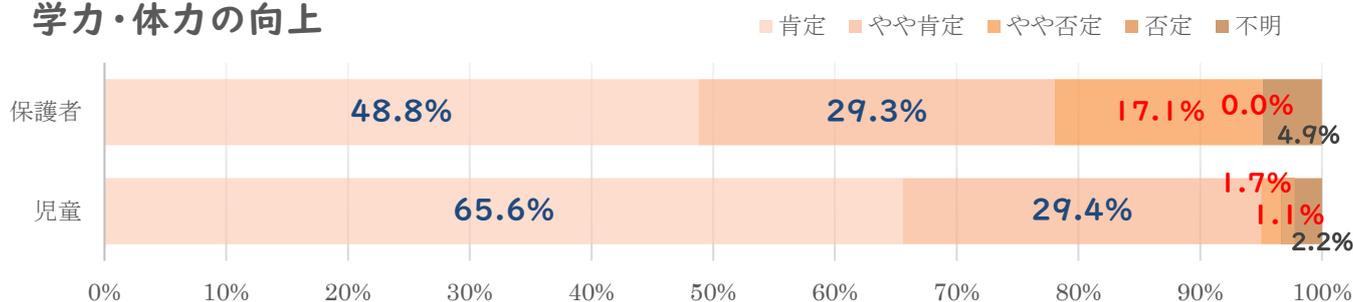
学校目標



< 保護者 90.2% / 児童 64.4% >

学校目標の周知については、昨年度と比べると大きく下がった。保護者の評価は、一昨年から昨年にかけて12%上がったが今年度は4%下がった。児童は昨年度から大きく下げて9%の下げ幅である。全校で周知が足りない様子が見られるので、校長講話を中心に、校内でくり返し七小の目標を伝えていく必要性がある。

学力・体力の向上



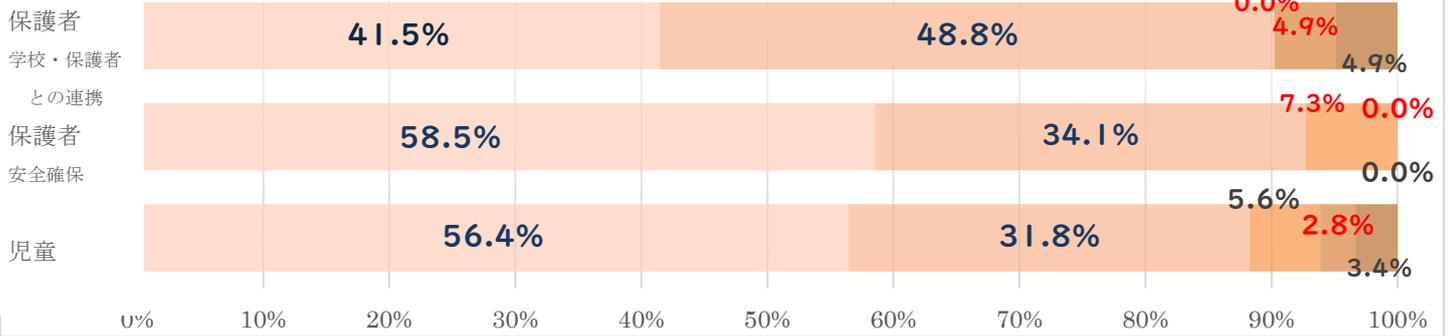
< 保護者 78.1% / 児童 95% >

児童については、昨年も数値は高かったが、本年度はさらに高い肯定の数字が出ている。学力や体力向上へ向けての取り組みについて、概ね満足をしているのではないかと考える。しかし保護者については昨年度が一昨年度に比べて23%下げていた、今年度は微増の5%ほどの上昇だった。学校として、学力向上のために、基礎基本を安定させて、取り組みや成果が伝えられるようにしたい。

体力の向上については、今年の東京都体力テストの結果で投擲力や跳躍力をについて、弱い傾向が見られた。体育の授業だけでなく、集会などを活用しながら、より様々な動きに取り組みせ、体力の向上を目指していく。

学校での安心・安全

■ 肯定 ■ やや肯定 ■ やや否定 ■ 否定 ■ 不明

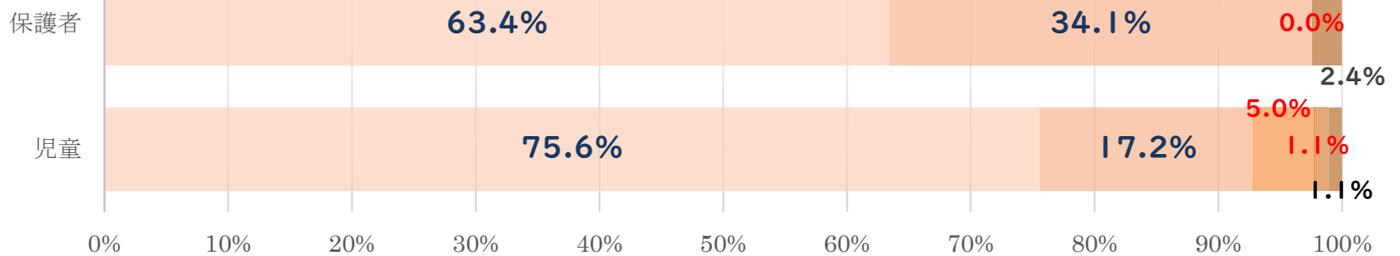


<保護者(連携) 90.3% / (安全確保) 92.6% / 児童 88.2%>

昨年度同様、高い肯定の数字が出ている。保護者の学校との連携の数値が10%下がっているが、90%をこえている。引き続き、細やかに児童一人ひとりに対して、気を配り、目が届くようにしたい。また、地域の協力とも連携し、学校、保護者、地域で子どもたちが安心して登校し、安全に過ごせるように学校体制を整えていきたい。

学校行事

■ 肯定 ■ やや肯定 ■ やや否定 ■ 否定 ■ 不明



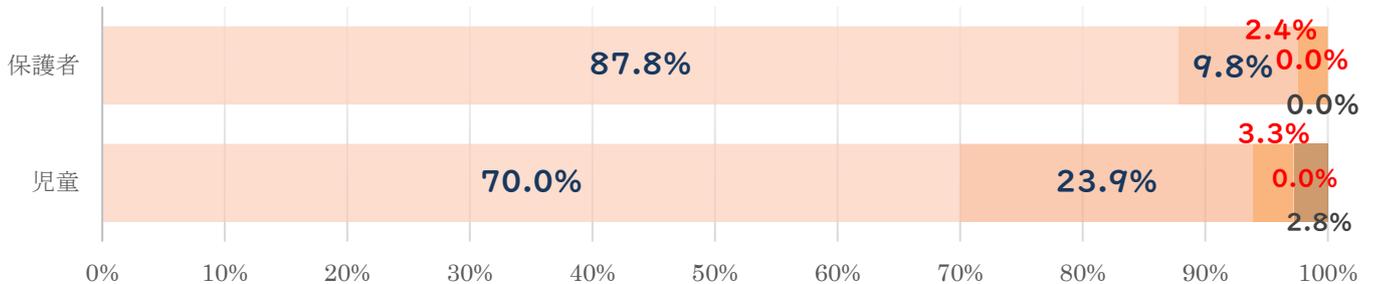
<保護者 97.5% / 児童 92.8%>

定年同様に非常に高い肯定の数となっている。多くの行事を行い、児童の体験活動を積極的に行い、運動会や展覧会も制限をかけずに多くの保護者に参観していただいた。

引き続き、児童の安全を確保しつつ、児童の活動を増やしていきたい。また、保護者にも子どもたちの成長を見ていただけるように適宜対応していく。

異学年交流(たて割り・集会等)

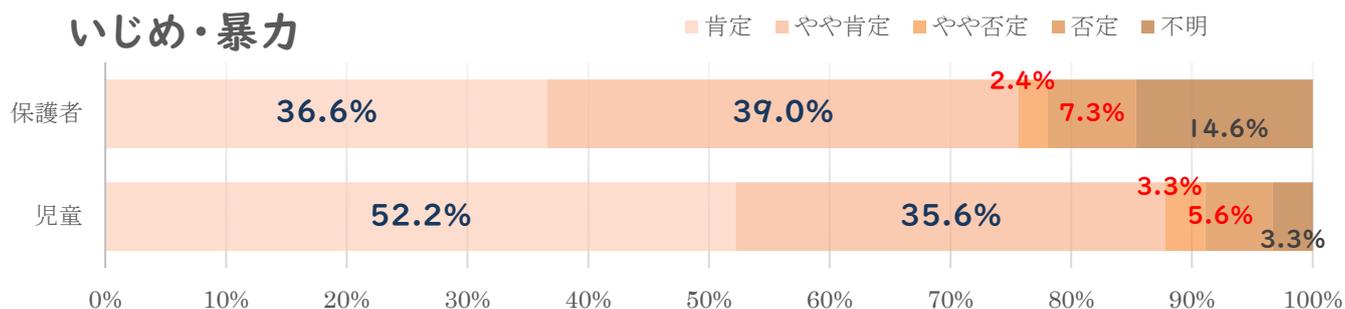
■ 肯定 ■ やや肯定 ■ やや否定 ■ 否定 ■ 不明



<保護者 97.6% / 児童 94.2%>

非常に高い肯定の数字が出ている。特に、保護者からの肯定意見は87.8%と大変高い。今年度は、上級生が下級生の世話をする活動を意図的に増やしてきた。保護者にもその場面を伝えるようにし、周知されていると思われる。引き続き、児童の安全や健康に配慮しながら、積極的に交流活動を取り入れていきたい。

いじめ・暴力

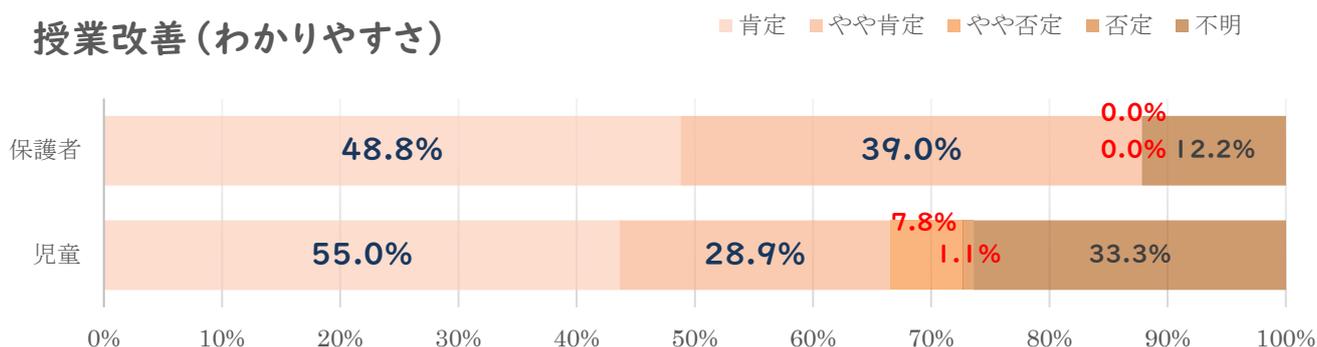


< 保護者 75.6% / 児童 87.8% >

昨年度に大きく下げた肯定的な評価が保護者、児童ともに8%上がった。また、昨年度「わからない」と答える保護者が21.6%いたが、今年度は14.6%まで下がっていることから、学校での様子が少しずつ伝わっていると予想される。

表立った保護者からの訴えも減っているが、継続している案件や訴えがある。また、表面化していない案件を早期発見するため、教職員間で情報を共有し、早期対応をするように心がけたい。一つ一つの案件については、管理職を交えて、生活指導部を中心に学校全体で指導に当たり、いじめ暴力の根絶にむけて指導をしていき、その取り組みを保護者に適宜伝える機会をもつようにしたい。

授業改善(わかりやすさ)



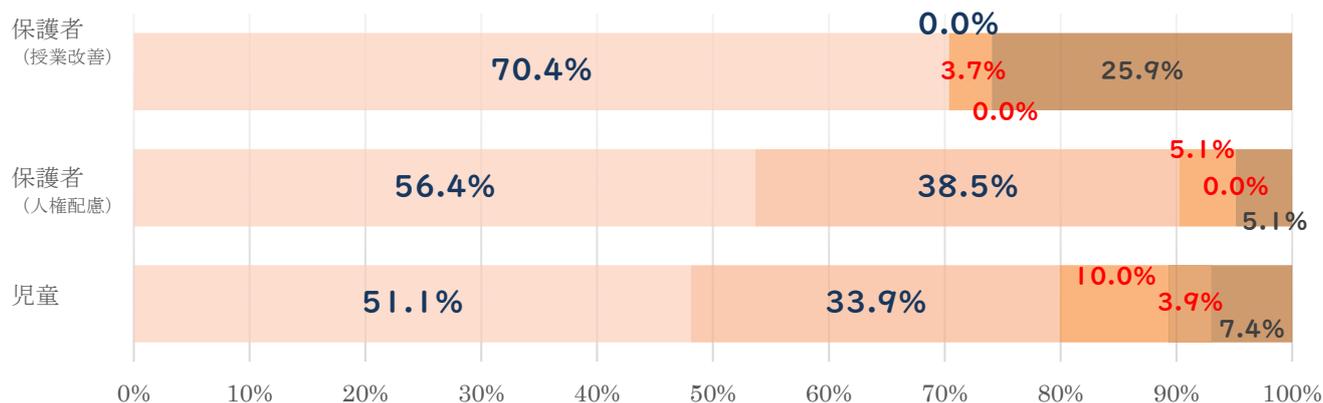
< 保護者 87.8% / 児童 84% >

児童が「わかりやすい」と思う割合は昨年度より、少し増えているが、保護者の割合は4%下がっている。児童は教科担任制で専門性の高い教員から指導を受けることで、「授業がわかりやすい」と感じていると思われるが、その結果が保護者にまで伝わっていないものと予測される。また、本年度の実績として実際には、東京ベーシックドリルテストの結果や学力調査の結果は1学期よりも3学期の方が向上しているクラスが多く、細やかな指導がなされてきたものを思われる。

教科担任制における効果として「わかりやすい授業」についての学校での取り組みを学校から積極的に発信していきたい。

授業の工夫 (楽しさ・改善)

■ 肯定 ■ やや肯定 ■ やや否定 ■ 否定 ■ 不明

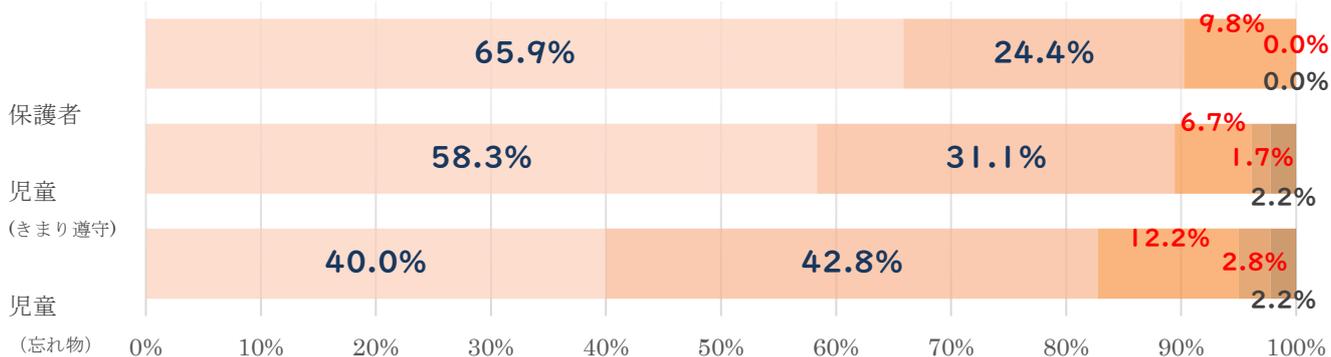


< 保護者 (人権) 95% / (授業改善) 70.4% / 児童 85% >

全体的に数値が大幅に上がった。児童については5%の増だが、保護者については15%以上の向上であった。「わかりやすさ」と同様に教科担任制での授業により、より工夫された授業が行われた結果だと思われる。引き続き、授業改善や調査の結果を意図的に伝えられるようにしたい。どの子どもも楽しめ、分かる授業を目指して次年度の授業改善を行っていききたい。

学習規律

■ 肯定 ■ やや肯定 ■ やや否定 ■ 否定 ■ 不明

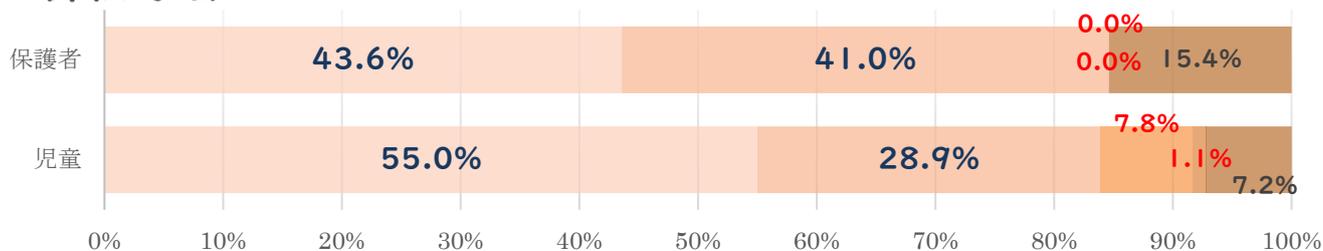


< 保護者 90.3% / 児童 (きまり) 89.4% / 児童 (持ち物) 83.8% >

学習規律については、全体的に微減がみられる。学校全体で規律が緩くなっており、児童の間に「きまりを守る」「忘れ物をしない」という意識が少し薄くなっているように感じられるため、生活指導部を中心に学校全体で取り組みを強化していききたい。

評価方法

■ 肯定 ■ やや肯定 ■ やや否定 ■ 否定 ■ 不明

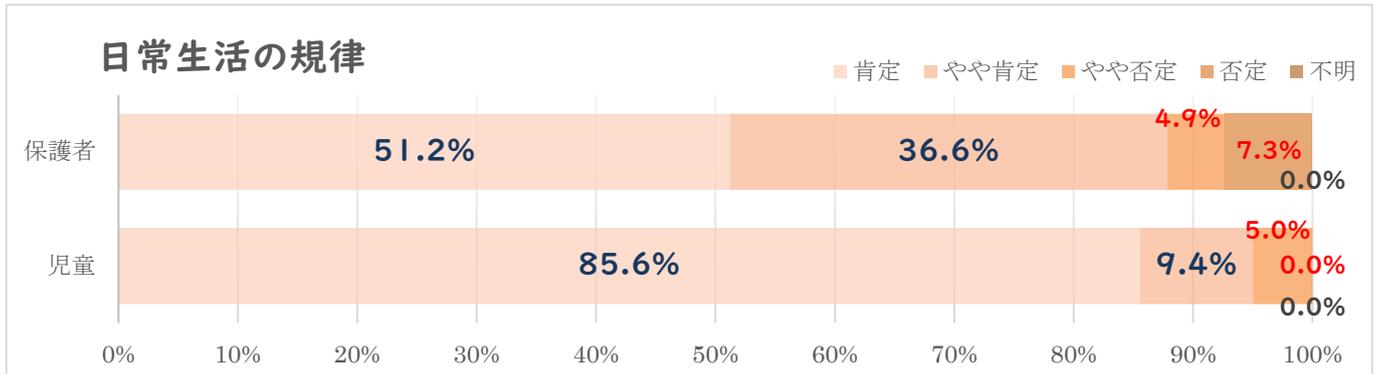


< 保護者 84.6% / 児童 84% >

高めの肯定の数値が出ている。しかし保護者は7.3%の減少がある。昨年度は、肯定評価が大幅に上昇したが、教科担任制のため、それぞれの教科についての評価方法が保護者に伝わっていないと思われる。

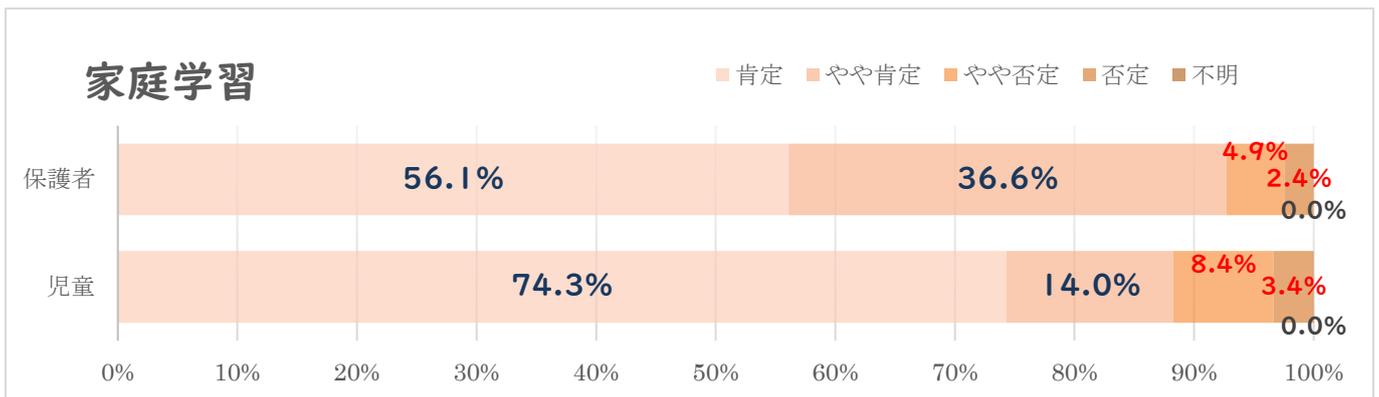
教務部を中心に評価が一定するように担任と連携しているので、保護者会や学年便りで評価方法やその観点を各家庭に丁寧に伝えたい。児童には引き続き、クラスでのよことを良かったと評価し、伝えるようにしていく。

○生活



< 保護者 94.9% / 児童 95% >

高い肯定の数字が出ている。特に児童の85.6%がよく守れているとしている。日ごろ、各ご家庭で子供たちをしっかりと見守っており、朝起きて、朝ご飯をしっかりと食べて登校していることがわかる。子供たちも、日常生活をしっかりと遅れていることに自信をもっている様子うかがわれる。とてもありがたい状況であり、引き続き、学校でも見守っていきたい。



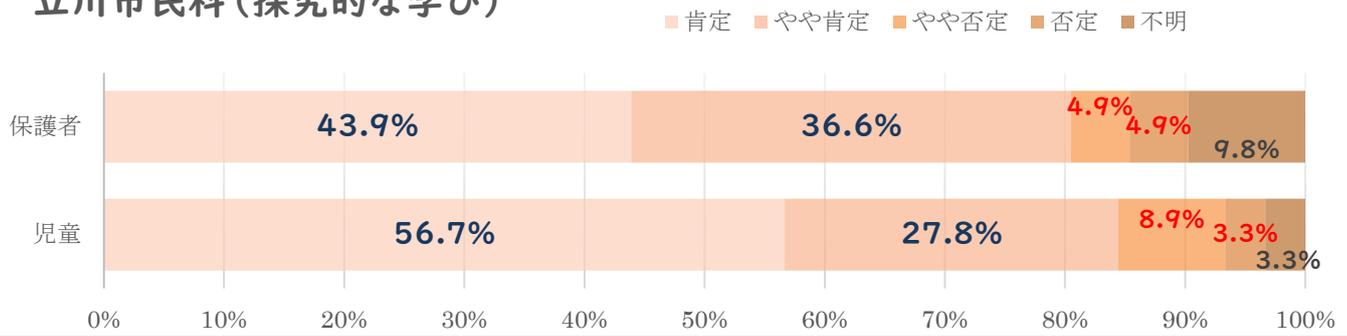
< 保護者 92.7% / 児童 88.3% >

保護者の結果は、昨年度から引き続き大変高い。今年度は児童については、大きく数値が上がった。各担任や教科担当者が一人で学びを進めることが難しい児童にも、家庭学習の指示を明確にしたり、タブレットでの学習指導を分かりやすく提示していた結果だと思われる。

学校として、学力を向上させていくためには家庭での学習が必要不可欠となるので、個に適応して、学びを深められるように課題の工夫を目指していきたい。

○立川市独自の学び

立川市民科 (探究的な学び)

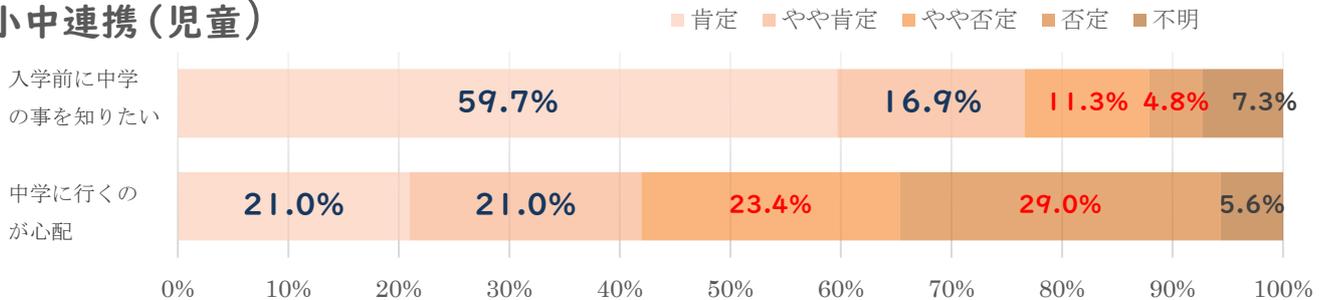


< 保護者 80.5% / 児童 84.5% >

今年度は全学年に質問をした。昨年度より数は微減しているが、低学年が探究的な学びについて考えることが難しかったことが原因と思われる。

地域や保護者が学校に協力的な地域であるという特徴を生かし、実際に触ったり、話を伺ったりしながら体験学習を進められるように指導をする。また、その活動の中で学年相応の探究型の学習を行い、自ら課題を見付け、解決していこうという意欲をもてるような、学校独自のカリキュラムを構築していく。

小中連携 (児童)

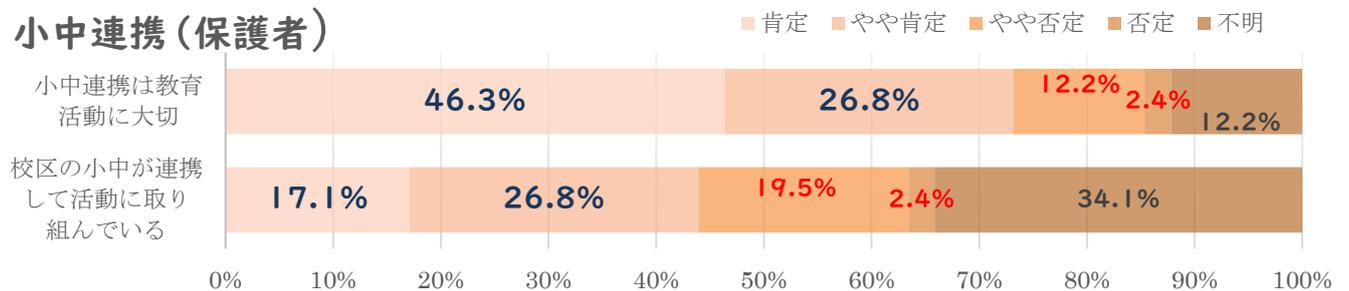


中学に行くことが心配 < 心配：42% / 心配ではない：52.4% >

入学前に中学の事を知りたい < 76.6% > ※3年生以上で実施

3年生以上にアンケートを取った。中学に行くことが、「心配である」と答えている子が「心配ではない」と答える子より10.4%少なく、中学校のことを知りたいと思う児童が7割を超えている。中学校との交流がほぼないため、中学校生活への具体的な像が浮かばないのではないかと考える。中学校生活について興味関心をもてるように、より連携を深めていく

小中連携 (保護者)



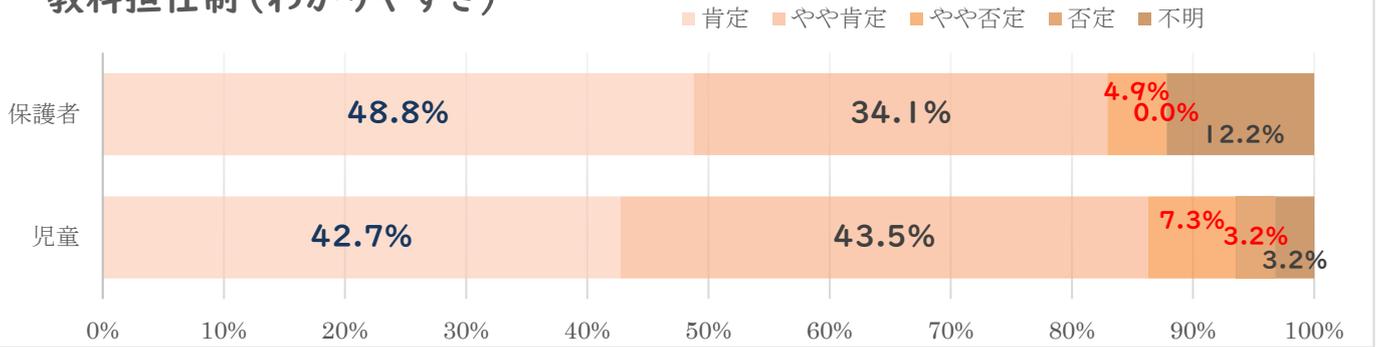
小中連携活動の大切さ < 72.1% > 校区で連携している < 43.9% >

昨年度とほぼ同じ数値が出ている。保護者は小中連携教育での取り組みは重要であると理解していただいていることはわかる。しかし、校区の教育活動の連携が43.9%と非常に低く、「わからない」と答えた割合も半数近い34.1%となっている。

このことから、校区での連携活動があまり伝わっていないことがわかる。これは、児童や生徒との連携活動が見られなくなったことが関係すると思われる。交流を目にする活動があれば、わかりやすく数値は伸びるのではないかと考える。校区で連携しながら学習活動を行い、保護者に伝えていく。

○東京都 独自の学び

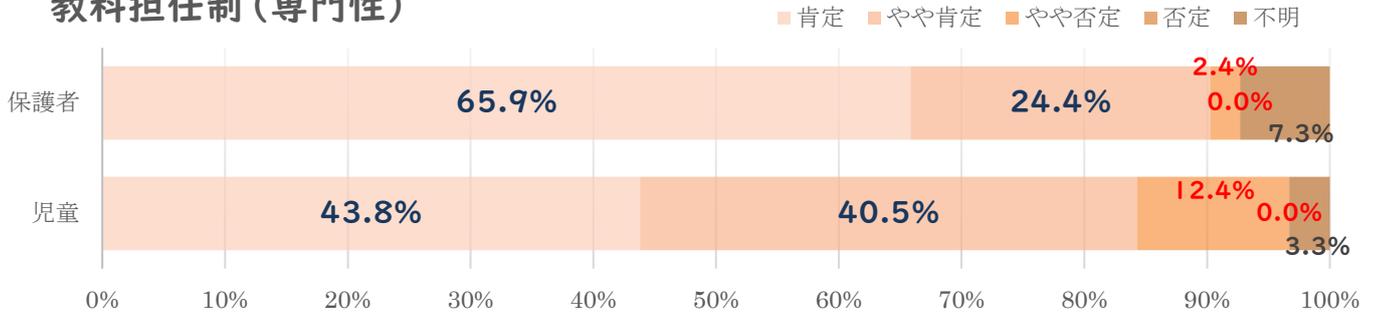
教科担任制 (わかりやすさ)



< 保護者 82.9% / 児童 86.2% > ※ 児童は3年生以上で実施

分かりやすさについては、高い数値がでていいる。子供たちが「わかりやすい」と思えるように、専門的な内容を段階に応じてわかりやすく伝えられるようにしていきたい。また、保護者への発信についても、適宜すすめていきたい。

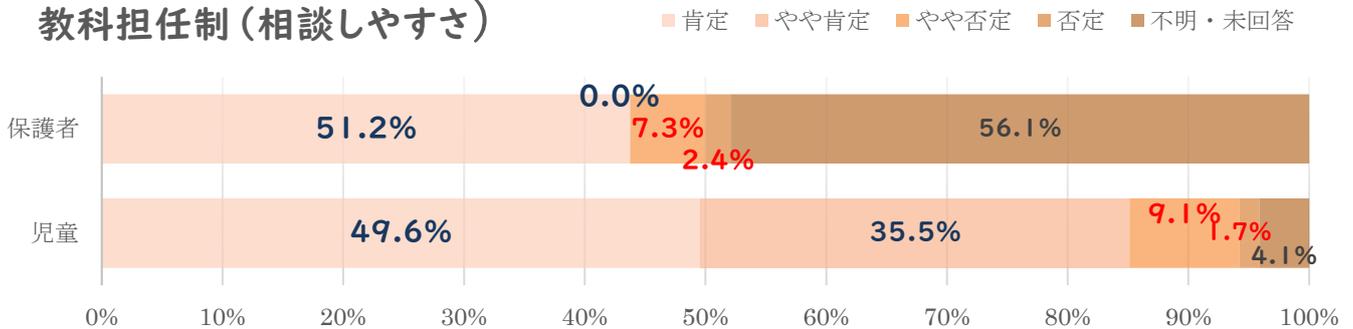
教科担任制 (専門性)



< 保護者 90.3% / 児童 84.3% > ※ 児童は3年生以上で実施

「専門性」については、高い数値になっている。特に保護者からは、「専門的である」とよい答えをいただいている。指導者がより、専門性を高められるようにするとともに、保護者への発信も考えていきたい。

教科担任制 (相談しやすさ)



< 保護者 51.2% / 児童 85.1% > ※ 児童は3年生以上で実施

「相談しやすさ」については、児童は高い数値になっているが、保護者は51.2%である。また、「分からない」も56.1%である。子供は自分の好きな教科の担当者に質問や相談に行ったり、接したりすることで、自分のことを知ってくれている大人の存在について、「相談しやすい」と感じていることが予測できる。保護者に児童の様子や思いを伝えるとともに、引き続き、きめ細やかな対応を心掛けたい。